

発見かんづま

— 北から南から —

九 年 庵



国の名勝九年庵。

神崎町の北端、仁比山神社仁王門をくぐり抜け、坂の参道を上りつめると、そこに緑の生け垣に囲まれた風雅な葦葺の屋根が姿を現す。

今年、雨なし台風13号の影響による塩害で、例年黄金色を見せる佐賀平野の稲穂も今一つ鮮やかさが足りない。

又、木々の緑もくすんだ感が否めないが、せめて、県内外から多くの人が詰めかける九年庵は、訪れた人々の琴線に触れる彩りを見せて欲しい…。

市民の声

まもなく2年を迎える現在のNPPOの仕事の中で、私は本来の「日本人の自然観」について学ぶことができませんでした。高温多湿で天災の多い日本において先人たちは、人間が決して勝ることのない自然と共に生し、自然の恩恵を受けながら生活をしていく知恵と技術を持っていました。自然の循環を妨げないよう川上と川下の交流が頻繁になされていたことが、山が海で使われていたことが山で消費されていたところには、神や自然そのもの力を利用して、難や害から身を守る知恵や技術を見ることができません。

物は溢れ、欲しい物は容易に手に入られる「早かろう、安かろう」が求められる今の時代。果たしてこれが本当の豊かさと言えるのでしょうか。自然と共生しながら、良いものを時間をかけて作り上げてきた日本の文化や人の心を思いやる「情」の精神。悪いしき伝説を次世代に残さないためにも、失われかけた様々な物の本質を知る時に来ています。

神崎市脊振町広滝
佐藤和歌子さん

編集後記

新市発足後二回目の議会、今回は十九名の議員が登壇。前回と合わせると登壇者は延べ三十六名となり議員一人当たり一・五回になる。この数字は議員が如何に議会に活発な論議をしているかを物語る。さて十二月議会は何名が登壇するか。また各常任委員会も活発な活動を展開している。

「手帳は町会議員時代より予定が一杯」と言う先輩議員。今後更に自己研鑽に努め市民の立場に立った活動をし、住みよい神崎市づくりに専念したい。

(文責 角田)

広報委員会

- | | | |
|------|----|----|
| 委員長 | 福田 | 清道 |
| 副委員長 | 角田 | 晴義 |
| 委員 | 古賀 | 安行 |
| 委員 | 田原 | 和幸 |
| 委員 | 白石 | 昌利 |